会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（新宿自治会）
2　日時	平成30年6月21日（木）18：30～20：00
3　場所	小和田コミュニティセンター
4　出席者	（資源循環課）添田主幹、水本主事 （環境事業センター）篠田主幹、安齋担当主査 （新宿自治会）参加人数：35人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●毎年のごみ処理経費が約30億とあるが、その内訳はどうなっているのか。 →本日お渡ししたごみ通信ちがさきの2面に処理費の内訳を掲載しており、収集運搬費約16億円、中間処理費約11億円、最終処分費約3億円という構成になっている。 ●施設の機械代としてこれだけの経費がかかるということか。 →機械代については、参考資料でお示ししているとおり焼却施設約168億円、粗大ごみ処理施設約40億円、ﾘｻｲｸﾙｾﾝﾀｰ約15億円、最終処分場約25億円である。 ●ごみを減らすことについては協力するが、そもそも人件費を削る必要があると思う。その中で、戸別収集について検討することには疑問である。 →ご意見として承ります ●集積場所の問題になるが、自治会に加入していない人のごみ出しのマナーがなっていない。特に燃やせるごみについては、カラスの被害などの相談が寄せられている。戸別収集をするのならば、燃やせるごみだけでも良いので先行してやってもらいたい。 →戸別収集については、現在、費用計算しているところである。有料化や戸別収集をしたことで、さらにごみ処理経費が増えては本末転倒なので、有料化で得た収入の中で戸別収集がまかなえるようにしていきたいと考えている。導入するとなれば段階的に導入することになると考えている。 ●市全体の予算のうち、環境部は約3パーセントの35億と記載があるが、その割合を1パーセントでも増やしてもらえるように努力することが必要ではないか。 →予算が増えれば、剪定枝の再資源化や、啓発などに予算を充てたいと考えており、環境部としても努力をしているところである。 ●他市では、有料化によりごみが減ったと説明があったが、それは戸別収集の影響もあるのか。 →戸別収集は、藤沢市と大和市のみ実施している。2市とも有料化と同時に戸別収集を

	始めたので、グラフでは有料化・戸別収集の両方の効果が反映されていると考えている。 ●意見交換会で説明をきいても、現状を認識するだけで、実際ごみを減らすために何をしたらよいかということには直結せず、市民の意識改革は難しいと思う。そうであれば、ごみの有料化をして、さらにごみ袋の値段を高くすればいい。その分、税金を安くするなど、いろいろな策を考えて欲しい。 →下水道についてはそのような考え方で、下水に排出している方が下水道料金を負担している。現在、ごみ処理はすべて税金でまかなっているので、ごみも排出者が負担するということも一つの考え方だと思う。ご意見として頂戴する。また、啓発だけではごみの減量は進まないので、剪定枝や小型家電など、資源化できる品目を増やすことも検討しているところである。 ●ごみ処理経費が毎年約 30 億かかると聞いたが、参考資料の別紙 2 では、環境部の予算約 35 億とある。その差は何か。 →予算約 35 億は環境部全体の予算であるので、し尿処理経費なども含まれている。 ●資料の中で、資源化可能な紙類 13 パーセントとあるが、どのようなものをさしているのか。 →紙の分別チラシにあるとおり、ついごみとして捨ててしまいそうなはがきやチラシなどの紙類が生ごみの中に含まれているということである。 ●資源化可能なプラスチック製容器包装類 8.8 パーセントとは、どのようなものか。 →燃やせるごみとして捨てられているプラマークのついたものが対象となっている。 ●汚れているプラスチック製容器包装類もこのなかに含まれているのか。 →汚れているプラスチック製容器包装類は、資源化可能なプラスチック製容器包装類には含まれていない。水で軽くすすいできれいになればプラスチック製容器包装類として出してもらい、水で軽くすすいでもきれいにならないものは燃やせるごみに出すようお願いしたい。 以上